平成 19 年度　香川大学卒業式　学長告辞

純白のモクレンとコブシの花が君たちの門出を祝っています．学位記を授与された 1,282 名の諸君，卒業おめでとう．君たちの在学中における努力と熱意に心から敬意を表するとともに，明日へ向けて広がる夢とちょっぴりの不安が同居する船出に大いなる讃歌と応援のエールを贈ります．本日，ここに平成 19 年度卒業式が行われることは我われ教職員にとっても大きな喜びであり，心からお祝申し上げます．

人の人生には何回もの区切りがあります．小学校や中学校，高等学校の入学や卒業は諸君らの経験のなかではひとつの区切りだったでしょう．もちろん大学への入学はそれまでの想いとは違ったものだったかも知れません．しかし，大学の卒業はそれまでの区切りとは大きく異なります．小学校から大学までは教育を受ける立場でしたが，4 月からはこれまでに修得･獲得した知的･身体的資産をもとに社会に還元する立場になります．今日までの蓄積だけで社会的活動を将来にわたって十分にまっとうするのはむつかしく，大学時代に養った知的資産を自分自身の日常的な努力によってさらに蓄積･活用しなければならないことは言うまでもありません．君たち大学卒業者に対して，社会は大きな期待を持っています．

先ほども少し触れましたが，これまでの君たちは社会から，両親から，周りの人たちからサービスを受ける立場であったと思います．しかし，これからの君たちは社会や両親，周りの人たちへサービスを提供する立場になることを自覚してもらいたいと思います．

アメリカでは次期大統領候補を決めるための選挙が佳境に入っていますが，アメリカ合衆国第 35 代大統領ジョン･F･ケネディーは 1961 年 1 月 20 日の就任演説のなかで次のように述べています．「わが同胞のアメリカ人よ，あなたの国家があなたのために何をしてくれるかではなく，あなたがあなたの国家のために何ができるかを問おうではないか．わが同胞の世界の市民よ，アメリカがあなたのために何をしてくれるかではなく，われわれと共に人類の自由のために何ができるかを問おうではないか．」．この一節は，たいへん有名な一節であります．後半の一部には異論があるという人がいるかも知れませんが，私は社会へ巣立とうとする君たちにとって次のようなメッセージになるのではないかと思っています．「わが香川大学を卒業する諸君よ，日本という国が君たちのためにどのようなサービ

スを提供してくれるかではなく，君たちがどのようなサービスを君たちの周りに提供できるのかを考えようではないか．わが香川大学を卒業する諸君よ，社会が君たちのために何をしてくれるかではなく，君たちが地球社会の持続的発展のために何ができるかを考えようではないか．」

さて，社会に目を向けてみると，社会が君たちに期待している課題はたくさんあります．国内を見ても，進行しつつある少子高齢化社会に起因する地域社会のあり方をはじめ，地域医療の現状に象徴される国民医療のあり方や，いじめや学力向上などに代表される教育問題，国と地方自治体の財政問題などを挙げることができます．また，食料自給率の問題に加え，人びとの価値観の多様化と「格差社会」という言葉に代表される問題もあります．さらに，グローバル化の進行によって，中国製冷凍ギョーザ中毒事件に見られるように，食の安全と安心も国内だけでは決して解決できない課題であることが明らかになり，国際的視点の重要性を強く感じさせられているところであります．一方，世界に目を向けると，食料不足の問題は拡大する傾向を見せており，8 億人とも 9 億人とも言われる飢餓人口や食料不足から餓死する子供が毎年 500 万人と言われる問題もあります．さらには，地球温暖化や生物多様性の危機に代表される地球環境に対する数多くの課題があります．

君たちが香川大学在学中に修得した幅広く，深い教養に裏打ちされた専門知識と学ぶ方法を自主的・自立的に社会の中で活かしてもらうことを願っています．大学の卒業は人生の大きな区切りですが，勉学の終わりを意味するものではありません．本当の勉学はこれから始まり，君たちの人生を通して継続し，より高めていくものであります．君たちにはその力が十分備わっており，社会も君たちに大きな期待を持っています．

大学に対する社会の期待はますます高まっています．香川大学が卒業生の皆さんにとって，いつまでも誇るに足る大学であり続けるように私たち教職員一同は全力で努める所存であります．香川大学を巣立つ君たちが，新しい環境のなかで，君たち自身の周りに対して，また地球社会の持続的発展のために何ができるかを常に考え，行動されることを期待して告辞といたします．

平成 20 年 3 月 24 日
香川大学長　一井　眞比古